

# 境河岸と菜の花



【©Zekkei×IBARAKI2017 絶景賞】  
(表紙写真提供：茨城県営業戦略部観光物産課)

境町は、町の南西部を流れる利根川、別名「坂東太郎」と深い関わりを持ちながら、歴史を刻んだまちとして知られています。

江戸時代、幕府から利根川の港として指定された「境河岸」には、奥州や北関東から多くの物資が集まり、周辺は宿場町として栄えました。

集まった物資は、境河岸から対岸の関宿を経由して江戸川を下り、江戸に輸送されました。関宿には関所が置かれ、関宿藩が代々管理しました。関宿城の面影は、現在、千葉県立関宿城博物館で見ることができます。

2015年7月、かつて境河岸の乗船場があった場所は、「境リバーサイドパーク」として復元され、セグウェイオフロードツアーや手ぶらでできるアメリカンスタイルのBBQを行っています。

さらに、河川敷にはサイクリングコースが整備され、境河岸を起点に北に進めば渡良瀬遊水地、対岸へ渡って江戸川を下り、一般道を走れば東京湾まで行くこともできます。

境河岸周辺は、国土交通省の「関東の富士見百景」に選ばれており、春には、河川敷を埋め尽くす菜の花と関宿城址、彼方に浮かぶ富士山を同時に望むことができます。

ご家族・ご友人とともに春の利根川を満喫してみたいでしょうか。



◆場所：茨城県猿島郡境町本船町地先  
(境河岸乗船場【境リバーサイドパーク】)

◆アクセス：

【電車】JR東北本線「古河駅」、または、東武鉄道「東武動物公園駅」からバスで「境車庫行き」に乗車、「境町バス停」で下車後、バス停から徒歩で約5分(合計約50分)

【車】圏央道「境古河IC」から約10分